

平成29年度会務総括報告

平成29年度事業ならびに会務運営は、平成28年度第5回理事会において承認（平成29年度定時総会にて報告）された事業計画に基づき執行した。

国際化では、第45回秋季学術大会に第3回国際放射線技術科学会議（ICRST）を併催し、アジア圏7か国から参加があった。また、第45回秋季学術大会時に中華民国医事放射学会（TWSRT）と学術交流に係る覚書を締結、ならびにアジア・オセアニア医学物理学会から要請があり、インド ジャイプールで開催された17th Asia Oceania Congress of Medical Physics（AOCMP2017）（11月）においてミニシンポジウムを開催するなど、アジアにおける基盤づくりを進めた。中華医学会影像技術学会（CSIT）ならびに大韓放射線科学会（KSRS）についても引き続き学術交流を行った。国際化の一つの指標である総会学術大会での英語化については、Cyposと発表スライドの英語化を100%で維持し、英語口述発表の割合も約45%と増え、国際化を着実に推し進めることができた。一方、学際化では、日本循環器学会（JCS）と学術協定を締結し、今後学術交流を促進して行く。

市民公開シンポジウム、市民公開講座を開催して研究成果を一般市民へ積極的に還元した。また、学術大会における実行委員会プログラムの編成作業の繁雑さや間違いを解消するために学術大会運用データ管理システム（ASCOSO）を第45回秋季学術大会から稼働させた。今後、一般演題への拡張を含めて本システムを充実させていく。

平成29年度末の正会員数は17,396名であり、平成28年度末の正会員数と比べてわずかであるが増加し、引き続き上昇傾向を維持した。学生会員は249名となり平成28年度末と比べて微減した。また、総会学術大会では4,800人を、秋季学術大会では1,900人を超える多くの会員が参加し、大盛会であった。

会員諸氏の温かいご理解と担当役員・委員の献身的な努力により、学会事業が順調に執行できたことに深甚の謝意を表す。

以下に、平成29年度事業の全般にわたり、その概要を報告する。

1. 学術集会事業；公1

1) 学術大会の開催

(1) 総会学術大会の開催

第73回総会学術大会は平成29年4月13日（木）～16日（日）の4日間、宮地利明大会長のもと開催した。一般研究発表演題は555題、参加登録者数は4,827名であった。

第74回総会学術大会は平成30年4月12日（木）～15日（日）の4日間、錦 成郎大会長のもとパシフィコ横浜会議センター他で開催すべく準備を進めた。

(2) 秋季学術大会の開催

第45回秋季学術大会を平成29年10月19日（木）～21日（土）の3日間、上田克彦大会長のもと広島国際会議場（広島市）にてJRC共催、日本医療情報学会の後援で開催した。一般研究発表は343題、ポスター発表162題、学術班研究報告8題、参加登録者は1,963名であった。

第46回秋季学術大会を平成30年10月4日（木）～6日（土）の3日間、千田浩一大会長のもと仙台国際センター（仙台市）で開催すべく準備を進めた。

(3) 第3回国際放射線技術科学会議（ICRST）の開催

第45回秋季学術大会に併催し、アジア圏7か国から17名が参加した。一般研究演題数は24題（内ポスター発表は7題）であった。

(4) 専門部会プログラム、セミナーの開催

7つの部会が春秋の学術大会にジョイントして部会プログラムを開催し、教育講演や種々の企画を行った。また、教育委員会、専門部会、地方支部共催で、画像部会は医用画像プログラミングセミナーと、ROCセミナー、DRセミナー、臨床画像評価セミナーを、核医学部会は核医学技術研修会と2回の核医学画像セミナーを、放射線治療部会は3回の放射線治療セミナーを、撮影部会は2回の乳房撮影ガイドライン・精度管理研修会、CT応用セミナー、2回の救急撮影セミナー（実践編）、デジタルマンモグラ

フィを基礎から学ぶセミナーを、計測部会は3回の簡易線量計作製セミナーを、放射線防護部会は放射線防護セミナーを、医療情報部会は3回のPACS Specialistセミナー、2回のPACSベーシックセミナーを行った。また、計測部会、放射線防護部会共催で4回の診断参考レベル活用セミナーを行った。

(5) 地方支部における学術大会、セミナー等の開催

各地方支部において地域に根ざした支部独自の企画で、春もしくは秋に学術大会ならびにフォーラム、セミナーなどを開催した。学術大会については、北海道支部は4月に北海道支部第73回春季大会、11月に北海道支部第73回秋季大会を、東北支部は10月に東北支部第55回学術大会を、関東支部は平12月に第64回関東支部研究発表大会を、東京支部は5月に第71回東京支部春季学術大会、11月に第35回東京支部秋季学術大会を、中部支部は11月に第52回中部支部学術大会を、近畿支部は平成30年1月に第61回近畿支部学術大会を、中国・四国支部は12月に第58回中国・四国支部学術大会を、九州支部は11月に第66回九州支部学術大会を開催した。

(6) 公開シンポジウム・公開講座の開催

一般市民を対象とした平成29年度市民公開講座を、科学研究費補助金を得て「身近な放射線！検査と治療の最前線からリスク評価まで」のテーマで長崎市において開催した。また、平成29年度市民公開シンポジウムを「のばせ！健康寿命-いつまでも健康で歩き続けるために役立つ放射線技術-」のテーマで京都市において、及び平成29年度JSRT-JART合同市民公開講座を「乳がんの見つけ方から治療まで～南雲先生と診療放射線技師がお答えします～」のテーマで横浜市において開催した。

(7) フォーラムの開催

広報、啓発を目的に放射線防護委員会は第73回総会学術大会時に放射線防護フォーラムを、標準規格委員会は第73回総会学術大会時及び第45回秋季学術大会時に標準化フォーラムを、関係法令検討委員会は第73回総会学術大会時に放射線管理フォーラムを、医療安全委員会は第73回総会学術大会時ならびに第45回秋季学術大会時に医療安全フォーラムを開催した。

2. 刊行広報事業；公2

(1) 学会誌の発行

平成29年1月～12月で掲載論文数が65編（昨年は同期間で74編）となった。学会誌第73巻1号～第73巻12号の12冊（論文特集号1冊含む）を毎月20日に発行した。

(2) 英語論文誌の発行

一般社団法人日本医学物理学会との共同発刊で、第10巻1号を平成29年3月20日付、2号を平成29年6月20日付、3号を平成29年9月20日付、平成29年12月20日付で発行した。掲載論文数の合計は63編となった。

(3) 出版活動

放射線医療技術学叢書（14-4）「乳房撮影精度管理マニュアル」、(27)「X線CT撮影における標準化～GALACTIC～（改訂2版）を増刷した。

(4) 支部雑誌の発行

各支部において支部雑誌を発行した。北海道支部は北海道放射線技術雑誌をVol. 82, Vol. 83を、東北支部は東北支部雑誌第27号を、関東支部は関東支部雑誌20号を、東京支部は東京支部雑誌Vol. 131, Vol. 132を、中部支部は中部支部雑誌Vol. 19を、近畿支部は近畿支部雑誌Vol. 23 No. 1, No. 2, No. 3を、九州支部は九州支部雑誌Vol. 16 No. 1を発行した。

(5) 部会雑誌の発行

春秋の学術大会に合わせて各部会において部会雑誌を発行した。

(6) 広報活動

会告、お知らせ、イベント、他団体からの案内をホームページ（和文）等に掲載し、広報活動を展開した。一方、医療に関する放射線被ばくや放射線技術に関する市民からの問い合わせに対して迅速に対応した。

3. 研究調査事業；公3

学術調査研究班 15 班を編成して積極的な学術活動を行った。また、4 規格について JIS 原案を作成した。

医療放射線管理にとって重要である放射線事前安全評価のために日本画像医療システム工業会および厚労省 科研費研究「細野班」と協力してエックス線装置の遮蔽計算マニュアル作成に取り組んだ。また、医療現場における水晶体被ばくの現状について調査し第 3 回眼の水晶体放射線防護部会にて報告した。

第 73 回総会学術大会では、専門部会講座の「入門編」7 講座ならびに「専門編」8 講座を、第 45 回秋季学術大会では、専門部会講座の「入門編」7 講座ならびに「専門編」8 講座、教育講座を開催するとともに専門部会講座のコンテンツを e-learning としてホームページに掲載した。また、防護関連、英語プレゼンテーション講座ならびに CM 編の e-learning のコンテンツを作成した。

4. 研究奨励事業；公4

規定に基づき、三賞、学術業績賞、研究奨励賞等の選考・推薦を行った。

北海道支部は、学術賞、学術奨励賞、Young Investigator Awards、優秀研究賞などの表彰ならびに技術研究助成を行った。東北支部は功労賞を表彰した。関東支部は、功労賞、技術奨励賞、新人賞を表彰した。東京支部は、功労賞、学術奨励賞、新人研究奨励賞の表彰を行った。中部支部は功労賞、技術奨励賞を表彰した。近畿部会は第 60 回近畿部会学術大会の優秀発表者に対して大会長賞、新人賞奨励賞を表彰した。中国・四国支部は、功労賞、奨励賞を表彰した。

5. 連携交流事業；公5

(1) 国内

① 関連学協会への委員の派遣ならびに共催・協賛・後援含めて関連学協会への協力を行った。

(a) JIRA と協力し、基準委員会活動としての JIS 原案審議と認証基準審議を行った。

(b) 医療情報の標準化を目的に日本 IHE 協会と連携を図り医療情報の標準化およびガイドラインを作成した。

② JRC 理事会に役員を 6 名派遣し、学術大会開催企画に積極的に参画した。

③ 医療被ばく研究情報ネットワークに参画し、診断参考レベルについて関連学会と連携をとりつつ、普及や検討に努めた。

④ 公益社団法人 日本診療放射線技師会と懇談会を 2 回開催し、合同市民公開講座を 1 回開催した。

⑤ 日本循環器学会と学術協定を締結した。

⑥ 日本放射線看護学会と連携し、看護師への放射線教育をについて協議した。

(2) 海外

短期留学生の派遣 (1 名)、国際研究集会への派遣 (11 名)、本学会と交流のある海外学会への派遣 (9 名)、を行った。

第 73 回総会学術大会に中華医学会影像技術学会 (CSIT) から役員 2 名、推薦会員 13 名を招聘した。また、第 24 次中華医学会影像技術学会総会学術大会 (9 月) に 3 名、ならびに大韓放射線科学会 (KSRS) (5 月) に 5 名を、AOCMP2017 (11 月) に 5 名を派遣して学術交流をおこなった。